

## お客さまや社会の「お役に立つ」ことが原点



エネルギーの供給や暮らし・ビジネスを支える多様な商品・サービスなどの提供を通じて、顧客や社会に役立つことを目指す Daigas グループ。今回のコロナ禍では、これまでのさまざまな社会貢献活動に加え、新たな取り組みにチャレンジするほか、2025年大阪・関西万博に向けた新規の環境技術実証を検討している。多方面にわたる社会貢献活動や社会課題への取り組みの原点にある考え方や精神とは何か。今年、大阪ガス社長に就任された藤原正隆氏に、活動への思いについて伺った。

### 「お役立ち」の精神を社会貢献活動にも

昨年来続く新型コロナウイルス感染症の蔓延は、今も日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。その中でも私ども Daigas グループは、社会インフラ事業の一端を担う企業グループとして、エネルギーの安定供給と保安確保等に懸命に取り組んでいます。私自身、今年1月に社長に就任しましたが、改めてその責任の重さを認識する毎日です。

当社グループは1905(明治38)年、大阪市内で都市ガス供給を開始して以来、今年で創業116年を迎えます。その間、ガス燈を灯す照明用から家庭用や業務用・産業用の熱源へと、さらには発電用へとその用途を広げ、ガスや電気などのエネルギーの供給、暮らしやビジネスを支える多様な商品・サービス・ソリューションの提供を通じて、お客さまや社会の

お役に立つ企業グループとしての発展を求めてきました。こうした当社グループの「お役立ち」の理念・スピリットは、事業活動はもとより、地域でのボランティア活動や文化・スポーツ振興などの社会貢献活動にも受け継がれています。

### 40周年を迎えた“小さな灯”運動

1981年に始まった“小さな灯”運動は社員やOBが自発的に参加するボランティア活動で、今年、40周年を迎えました。児童福祉



ともしびこどもクッキング



御堂筋ふれあいバザー

施設の子どもたちの将来の自立を支援する「としびこどもクッキング」や、障がいのある方々の手づくり商品の展示販売を行う「御堂筋ふれあいバザー」など、社会のなかで支援を必要とされて

いる方々を応援する活動を続けています。一つひとつの活動は小さくとも、それらを積み重ね、継続することが大切だと考えています。

また、コロナ禍での新しいかたちの社会貢献活動にも取り組んでいます。自治体やNPO法人、社会起業家と連携・協働して社会課題の解決を図るソーシャルデザイン活動の一環として、コロナの影響で活動に支障をきたしているNPO法人などを応援するオンラインセミナー「Reスタート!」を2020年に開催しました。他にも、当社従業員が発起人・世話人となり、働く世代のがん経験者が自らの体験を語るプロジェクト「ダカラコソクリエイト」では、コロナ禍での不安との向き合い方や自粛生活の工夫などについて、SNSやオンラインイベントを通じて発信しました。加えて、最初の緊急事態宣言が発令された2020年5月には、感染防止に必要な物資を当社グループ従業員から広く募集し、マスク、消毒液など3,000点を児童養護施設、福祉作業所、NPO法人に寄贈しました。



Reスタート!

## 地域の文化・スポーツ振興のお手伝い

「扇町ミュージアムスクエア (OMS)」は当社が1985年に開設した複合文化施設で、当時、関西では珍しかった小劇場を備え、2003年までの18年間、演劇文化の創造・発信拠点としてご愛顧いただきました。その10周



OMS 戯曲賞

年記念事業として、関西の新しい劇作家の発掘や活躍の場づくりを目指して1994年に創設されたのが「OMS 戯曲賞」です。同賞は現在も存続して、毎年50～60件の応募をいただいております。今後も微力ながら関西の演劇文化振興のお役に立ちたいと考えています。

また、硬式野球部や陸上競技部の活動を通じて、地域のスポーツ振興のお手伝いをさせていただいています。硬式野球部では、地元での野球教室の開催や清掃活動のほか、福祉作業所に委託して修繕してもらった硬式ボールを高校の野球部に寄贈する活動「ハートボールプロジェクト」を行っています。これまでに寄贈したボールは2,000球を超えました。



ハートボールプロジェクト

## 2025年 大阪・関西万博に向けて

2025年、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪湾の夢洲で大阪・関西万博が開催されます。万博は世界や日本はもとより、関西の成長・発展につながる国際イベントであり、当社グループも地元企業グループとして万博の成功に向けて精一杯貢献したいと考えています。万博会場は「未来社会の実験場」と位置付けられていますので、当社グループでは、カーボンニュートラルの実現に向けて、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を用いて都市ガスの原料をつくる「メタネーション」の実証を検討しています。

ウイズコロナ、アフターコロナの時代においても、お客さまや社会と向き合い、そのお役に立つことが当社グループの原点であることに変わりはありません。「時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニー」へと進化し、持続的な成長の実現を目指す中で、社会課題の解決や地域の社会貢献活動にも積極的に取り組んでまいります。

藤原正隆(ふじわら まさたか)氏

1958年生まれ、大阪府出身。1982年京都大学工学部石油化学科を卒業後、大阪ガス入社。エネルギー事業部エネルギー開発部長、大阪ガスケミカル株式会社代表取締役社長、常務執行役員、代表取締役副社長執行役員などを経て2021年1月より現職。

大阪ガス株式会社

本社：大阪市中央区平野町4丁目1番2号、創業1905(明治38)年10月19日、資本金1,321億円、従業員数(個別)3,203人